

修士論文（要旨）

2022年1月

娘介護者が認知症老親の施設入所を決断する心理的プロセス  
— 家族としての葛藤および関わりを踏まえて —

指導 井上 直子 教授

心理学研究科  
臨床心理学専攻

220J4008

平川 優花

Master's Thesis(Abstract)  
January 2022

The Psychological Process of a Daughter Caregiver's Decision to Place  
an Elderly Parent with Dementia in an Institution :  
In the Context to Family Conflicts and Relationship

Yuka Hirakawa  
220J4008  
Master's Program in Clinical Psychology  
Graduate School of Psychology  
J.F. Oberlin University  
Thesis Supervisor : Naoko Inoue

## 目次

第1章：問題と目的.....	1
1.1 はじめに .....	1
1.2 認知症介護における負担.....	1
1.3 認知症施策.....	2
1.4 認知症の家族介護 .....	3
1.5 娘介護者による介護.....	4
1.6 目的と研究意義.....	4
第2章：方法 .....	6
2.1 研究協力者.....	6
2.2 研究協力者の抽出方法 .....	6
2.3 インタビュー調査の方法.....	7
2.4 分析方法 .....	7
2.5 分析手続き .....	8
2.6 倫理的配慮.....	8
第3章：結果 .....	9
3.1 研究協力者の概要 .....	9
3.2 生成された概念.....	9
3.3 ストーリーライン .....	9
3.4 まとまりごとのカテゴリー説明 .....	10
3.4.1 「施設入所の浮上」 .....	10
3.4.2 【対極する介護への気持ち】 .....	11
3.4.3 「現実検討」 .....	12
3.4.4 【決断までの模索】 .....	12
3.4.5 【入所決断へ踏み出す】 .....	13
第4章：考察 .....	16
4.1 施設入所を考え始めた時.....	16
4.2 葛藤する時期 .....	17
4.3 模索する時期 .....	19
4.4 施設入所へ気持ちの折り合いが付いた時.....	23
第5章：総合考察.....	26
5.1 プロセス全体を通して .....	26
5.2 娘介護者や周囲にいる人々，そして専門職への提言 .....	29
5.2.1 娘介護者への提言.....	29
5.2.2 家族や周囲の人そして専門職への提言 .....	30
5.3 気持ちに折り合いを付けるとは .....	30

5.4 今後の課題.....	31
----------------	----

謝辞

文献

付録

## 第1章 問題と目的

### 1.1 はじめに

日本での少子高齢化が社会問題として取り上げられて久しいが、内閣府（2020）によると実際に高齢者人口は増え続け、それに伴い認知症高齢者も増加傾向にある。介護保険制度における要介護者等（要介護又は要支援の認定を受けた者）も増加傾向にあり、介護が必要になった原因は最も多いのが「認知症」である。症状の個人差や、認知症の進行度合によっても、認知症介護に困難を覚えることが明らかになっている（黒澤，2015）。

東野・中島・張・大塚賀・筒井・中嶋・小山（2010）の研究による大規模調査では、介護負担を強く感じているほど精神的健康は低下するという因果関係が証明され、介護負担感を軽減することが介護者の精神的健康の維持・増進に有効的であると示されている。介護負担を軽減することは介護者の精神的健康を守ると同時に間接的に被介護者への良質なケアにもつながると考えられる。大谷ら（2020）は介護者を取り巻く関係性が介護者の抱える介護負担に影響していることや、様々な苦難や苦痛に直面しながらもそれらを乗り越えることで介護者自身の内面的成長に繋がることを明らかにしている。介護場面は単に介護が行なわれるだけでなく、同時にさまざまな対人行動が行なわれる場所でもあり、介護者と被介護者間での介護行為を含んだ相互作用を通して介護以前の間人間関係が継続して影響を持つ場と位置づけることもできるのである（唐沢，2009）。

実際介護をするものは内閣府（2020）の調査より女性が多いことがわかっており、さらにその中でも娘にあたる介護者は、横瀬（2009）の研究により施設入所決断時に他の属性の介護者に比べて葛藤が強く表れており、娘介護者特有のものとしている。さらに上山・田場・守本（2016）は、娘介護者においては原家族における昔からの親子関係や現在の家族関係といった様々な関係性のなかで大きな負担を抱える状況があると述べている。櫻井・田代（2016）の研究にもあるように、子世代の介護者が親の施設入所を決心するまでのプロセスには、認知症発症後に崩れた親子の関係性を再構築していくプロセスが存在していた。

### 1.2 目的と研究意義

そこで本研究では、認知症老親を在宅介護していた娘介護者に焦点を当てた。施設入所を決めるまでに感じた葛藤に対して、どのようにして気持ちの折り合いを付けたのか、その心理的プロセスを明らかにすることに加え、娘介護者と認知症老親や家族（原家族と現家族を含む）の関わりが、心理的プロセスに対しどのように影響するか検討を行なうことも目的とする。そしてこれらのことから娘介護者とその家族に対して、施設入所を決断するまでの見通しを提案することや娘介護者を支援する専門職が娘介護者の心理を理解することに加えて、家族が果たしうる役割も理解することの一助となるであろう。

## 第2章：方法

### 2.1 研究協力者

認知症老親を在宅介護し、施設入所を決めるまでに感じた葛藤に対して気持ちの折り合いを付け施設入所を決断することのできた娘介護者 10 名を対象とした。また、本研究に

おける「気持ちの折り合いをつけることのできた」状態とは、①当初は在宅介護していた老親の施設入所を考え始めたときに心理的葛藤が生じて消極的・否定的な気持ちを抱いて悩んでいたが、②心理的プロセスを経て施設入所を選択することに対して主観的に「折り合いがついた」「前向きに考えられるようになった」と感じられるようになり、③最終的には施設入所を選択することに納得して具体的に動くことができた状態とした。

## 2.2 インタビュー調査方法

インタビュー質問項目と事前に記入されたライフラインシートに沿って1時間から1時間半程度の半構造化面接をオンライン（Zoom）で行なった。

## 2.3 分析方法

分析方法は、録音された内容を逐語録として起こし、木下（2007）による修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）を用いた。本研究の分析テーマは「娘介護者が施設入所を決断していくプロセス」とし、分析焦点者は「認知症老親の在宅介護から施設入所までに困難を抱えていた娘介護者」とした。「施設入所を考え始めた時」を始点、「施設入所を決断するまで」を終点とした。

## 第3章 結果

M-GTAによる分析の結果、3つの【コアカテゴリー】、7つの『カテゴリー』、2つの「サブカテゴリー」、24個の＜概念＞が生成された。また、生成された概念から入所を考え始めた時期、葛藤する時期、模索する時期、施設入所へ気持ちの折り合いが付いた時期の4つの時期で時系列を整理することができた。以下にコアカテゴリーは【】、カテゴリーは『』、サブカテゴリーは「」のカギ括弧にて表す。

娘介護者は施設入所を考え始めると、『介護継続に後ろ向き』と『介護継続葛藤』の【対極する介護への気持ち】が生まれていた。そこで「現実検討」を行うため、＜信頼ある助言を求める＞動きが見られた。その結果『入所の助言』を貰い、これまでしてきた介護やそれに伴う気持ちも含めて娘介護者が『他者受容-自己受容』体験をし、『入所を前向きに』捉えることができていた。そしてこれまで得た助言を『決断への後押し』にし、家族や認知症老親に対する『想いを乗せて』【入所決断へ踏み出す】ことができたのだった。

## 第4章 考察

娘介護者が施設入所を考え始める時期になると、在宅介護を継続したい気持ちはあっても継続することが現実的に難しく葛藤する場合や、認知症老親との関係性から在宅介護継続に後ろ向きの気持ちを抱くことがあった。この気持ちにはこれまでの親子関係も影響していることが分った。次に娘介護者は家族・友人・専門職へ介護に対する想いや老親のこと、そして施設入所に関して相談しており、相互交流を通して自信の悩みを解消する動きがみられた。これは木村・西尾・古賀・久木原（2020）の先行研究にあるように、本研究の娘介護者は対人信頼感が高いことが示唆された。他者へ相談することで施設入所に関す

る助言をもらいつつも、娘介護者が自分のこれまでの介護の頑張りを認める動きがみられていた。そして施設入所へ気持ちの折り合いを付ける際には、認知症老親を施設へ預けることの利点や、最初感じていた葛藤を他者との関わりを通して解消することで決断をすることができていた。このことから他者との関わりの重要性が示唆されたと考えられる。

## 文献

- 東野 定律・中島 望・張 英恩・大冢賀 政昭・筒井 孝子・中嶋 和夫・小山 秀夫 (2010) . 続柄別にみた家族介護者の介護負担感と精神的健康の関連性, 経営と情報, 22, 97-108.
- 上山 千恵子・田場 真理・守本 とも子 (2016) . 認知症高齢者を支援する娘介護者の体験 —介護生活の中で体験する困難と、介護生活の支えとなるもの—, 奈良学園大学 紀要, 5, 67-79.
- 唐沢 かおり (2009) . 高齢者介護における人間関係と家族介護者の精神的健康, 人間環境学研究, 7, 1-7.
- 木村 裕美・西尾 美登里・古賀 佳代子・久木原 博子 (2020) . 在宅認知症高齢者の介護者の対人信頼感による介護負担への影響と要因, 日本農村医学会雑誌, 69, 111-120
- 木下 康仁 (2003) . グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 —質的研究への誘い— 弘文堂. 木下 康仁 (2007) . ライブ講義 M-GTA 実践的質的研究法修正版 グラウンデッド・セオリー・アプローチのすべて, 弘文堂.
- 黒澤 直子 (2015) . 認知症家族介護者における困難への対処～家族会への調査から～, 人間福祉研究, 18, 107-114.
- 内閣府 (2020) . 令和 2 年版 高齢社会白書 , [https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1\\_2\\_2.html](https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2020/html/zenbun/s1_2_2.html) (最終閲覧: 2022 年 1 月 1 日) .
- 大谷 明弘, 塚本 博之, 加城 貴美子, 角谷 ふみ江, 春日井 美知代 (2020) . 我が国における認知症高齢者の介護支援者の現状と課題, 静岡産業大学情報学部研究紀要, 22, 41-57.
- 櫻井 美代子・田代 和子 (2016) . 認知症高齢者の施設入所を決断するまでの家族介護者の心理的变化, 東京医療学院大学紀要, 5, 1-8.
- 横瀬 利枝子 (2009) . 介護施設利用に到るプロセスへの一考察 — 認知症の母親と娘の関係性の視点から — , 生命倫理, 19, 60-70.